

令和3年度 嬉野市教育委員会 教育基本目標評価シート

嬉野市民ワクワクデザイン令和3年(社会教育)

具体的活動	教育委員会における自己評価				
	評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
(1)図書館サービス推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>窓口や電話での図書貸出やレファレンスに係るサービスの向上に努める。</li> <li>図書館行事や図書館利用、ホームページの利用者サービスについて、ホームページ・「図書館だより」等を活用した情報発信の促進に努める。</li> <li>学校や幼稚園・保育園等の他団体、遠隔地区の利用者等との連携を図りながら、本に親しむ読書環境づくりの推進に努める。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をとりながら、市民サービスの観点から各種行事や事業を実施する。ボランティア団体等、他団体や地域との連携を強化し、市民参加による図書館運営を目指す。</li> <li>読書活動推進月間の取り組みについての広報を推進し、作品募集等を通して読書活動推進月間の周知に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レファレンス研修会や各種研修の内容を窓口サービスの意識の向上、レファレンスの質の向上に活用することができた。</li> <li>ホームページや防災無線、図書館だよりを活用し、連絡や広報を迅速に行った。図書館直結のQRコードを記載することで、情報提供の利便性に繋がった。</li> <li>新型コロナウイルス感染に注意しながら、学校や幼稚園・保育園等、遠隔地の利用者に配本し、読書環境の提供に寄与できた。</li> <li>新型コロナウイルス感染状況に配慮し、検温等の感染拡大防止対策を取りながら図書館行事を実施することで、参加型の図書館運営に繋がった。</li> <li>読書活動推進月間では作品募集等に多数応募していただき、読書活動推進月間の周知に繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠隔地巡回の高齢の利用者が、歩行困難等により巡回場所に来られなくなるケースもあり、今後宅配サービス等の検討の必要性を感じた。</li> <li>今年度も幼稚園・保育園の巡回図書の実施を見送る状況が続く中、図書館へ来館して貸出を行った園もあり、今後も園と調整しながら読書機会の確保に努めたい。</li> <li>「嬉野市子ども読書活動推進計画」を再度練り直しており、計画に基づいて関係団体との連携を強化することで、読書環境の充実を更に図っていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの個人利用者ページについて、読書貸出履歴の確認等のサービス内容の周知を図るよう検討する。さらに、予約や貸出期間延長のシステム上でできるように利用者の利便性を向上を図る必要がある。</li> <li>今後、読書バリアフリーや「嬉野市子ども読書活動推進計画」を推進するために、関係課や関係団体との連携強化を図る必要がある。</li> </ul>
(2)文化財の保存・活用事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>国天然記念物「嬉野の大チャノキ」について、令和2年度の調査診断結果や現状を踏まえ、専門部会の意見を反映した業務に取り組み、樹勢回復に繋げる。</li> <li>埋蔵文化財と開発行為の調整について、事業者との連携を密にし、埋蔵文化財の保存・保護に努める。また公・民にかかわらず、乱開発防止に努める。</li> <li>伝統的建造物群保存地区における今年度予定の家屋の保存修理及び公開活用施設の建設について、適切に業務を実施し、文化的景観の保全と生活環境の向上及び塩田津の観光活用に繋げる。</li> <li>近年多発している台風や豪雨については、文化財関係の被災について注視し、被害を未然に防止又は最小限に止めるよう努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門部会の大チャノキ部会では活発な意見交換ができ情報共有ができた。</li> <li>R2年度の診断結果や樹木医の指導に基づき樹勢回復に取り組んだ。</li> <li>検索システムが導入され、迅速かつ的確に埋蔵文化財確認ができ事務の簡素化に繋がった。事業者への指導もスムーズに行うことができた。</li> <li>家屋修理2件については計画的に事業を進めることができたが、公開活用施設新築は、ワドショックの影響でR4年度に繰越すこととなった。</li> <li>8月の記録的な豪雨のわりに被害は少なかった。大チャノキは遊歩道の破損や枯れ枝の折れ、伝建地区では数件で漆喰の一部崩落があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大チャノキは萎黄病に罹患し近年の樹勢低下は顕著である。</li> <li>施肥・消毒・剪定等の作業は慎重に行う必要がある。</li> <li>埋蔵文化財包蔵地について、民間事業者の理解や周知が足りない。</li> <li>家屋修理に関する要望について、一部住民からの理解が得られず、対応に苦慮した。</li> <li>事前に台風や豪雨の襲来は予測できて、建物や樹木等の事前養生は困難である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁内関係課、地元、県茶業試験場、JA等との連携を強化し、より良い樹勢回復の策について検討する。</li> <li>関係者と情報共有を取りながら、文化財保護、その活用について理解してもらうよう努める。</li> <li>伝建地区についての理解を深めて貰えるよう啓蒙・啓発に努める。</li> <li>樹木については支柱や防風林設置など、長中期的な計画を検討する。</li> </ul>
(3)文化の振興と環境づくり推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種イベント等活動を行い、さまざまなジャンルの演目を身近に触れ体験することで市民の文化振興に対する理解を促し、子どもから大人まで市民の文化に対する高い意識の醸成を行う。また地域における各世代間の交流を基に、嬉野ならではの伝統文化の継承を図る。</li> <li>コロナ禍で発表の機会が無くなった文化団体に、その成果を動画で撮影しネット配信することにより発表の機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会文化会館を拠点に音楽や子ども向け講演を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、人数制限を設けて実施した。また2つの小学校で地域コミュニティを中心に地元の伝統芸能の歴史や体験を通じて子どもたちに継承することができた。</li> <li>発表機会が無くなった文化団体へ動画撮影の募集をし、3団体が撮影、ネット配信することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度公演の来場者は、市外の観客が極端に少なくなり感染状況を見て集客への作業が必要である。また伝統芸能継承事業では多くの小学校での事業展開が必要である</li> <li>昨年からの事業であるが申し込み団体が固定化している傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公演開催に向けて、感染状況を把握しながらSNSやメディアを通じて広報が必要である。伝統芸能継承事業では限られた予算の中で計画的に実施していくことが重要である。</li> <li>各文化団体に広く呼びかけ活動再開のきっかけづくりとしてもらいたい。</li> </ul>
(4)次世代を担う青少年の育成事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域及び関係機関との連携を強化しながら、様々な体験・学習が出来る場としての育成事業を展開し、青少年の豊かな人間性を育む。また子ども同士の交流を深めるため、ジュニアリーダーとして、高校生など様々なイベントに参加してもらう。</li> <li>地域全体が子どもたちとかかわりを持ち、地域で子どもたちを見守る環境の整備を推進する。</li> <li>放課後や休日に子ども達が安全・安心して過ごせる居場所を設け、地域や異世代との交流の場を提供し、青少年が心の豊かさ、生きる力を養える環境の整備を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は1事業のみとなったが、高校生にジュニアリーダーとして参加してもらい子どもたちとの交流ができた。</li> <li>地域コミュニティを中心に登下校時の見守りや挨拶声かけなども行われた。</li> <li>放課後子ども教室では地域の先生たちと交流が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生の参加によって、子どもたちの楽しみ方が変わった。</li> <li>放課後子ども教室では一定の成果は見えたが、他の教室にも拡大する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染状況を把握しながら多くの事業を実施する。</li> <li>地域の高齢者への呼びかけなど多くの高齢者に参加してもらい子どもたちとの交流を図ってもらう。</li> </ul>
(5)生涯学習のまちづくり推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習による生きがいや健康づくり、地域づくりに寄与するため学習の機会を提供し、誰もが参加できる生涯学習へのきっかけづくりや継続的な学習活動を推進する。</li> <li>新たな講座の内容を提供し、多くの市民が参加できるような機会を設ける。</li> <li>出前講座の内容や講師陣の充実に務め、少人数からより幅広い市民の学習活動の支援を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者教室の一般教養講座はすべてテレビ放映となったため、個々に視聴してもらった。</li> <li>新たな講座の内容を実施し、多くの参加者があった。またサークル活動も継続して行われており、各公民館で継続的に実施されている。</li> <li>各公民館長へ出前講座の案内をしたが、今年度も数件の実施にとどまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般教養講座はテレビ放映のため視聴者の反応が見られなかった。</li> <li>多くの講座の紹介ができたが、講座により参加人数の偏りがあった。またサークル活動継続で、高齢のためなど活動が難しくなるという相談があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般教養講座は今後もテレビ放映が続くが、多くの方に視聴してもらうよう老連や各老人会などに働きかけが必要である。</li> <li>講座については人気のある講座など研究し、広く市民に広報する必要がある。</li> <li>出前講座についても小グループでも実施できるように周知を行う。</li> </ul>
(6)スポーツのまちづくり推進事業	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ推進委員や嬉野市体育協会、総合型うれしのほほんスポーツクラブと相互協力を行い、各種大会や体力測定、クラブ活動を通じ、市民の体力向上と子どもから大人までスポーツに親しむことが出来る生涯スポーツの普及を図る。</li> <li>子どもたちへ体を動かすことの基本動作を遊びを通じて実践し、スポーツに対する関心を持つような事業を実施する。</li> <li>働く世代や中高年者に向けて、一人でも空いた時間にできる運動を紹介し、自身の健康づくりに対する意識を高めてもらう。</li> <li>家族や親子で楽しめるレクリエーションスポーツイベントを開催し、スポーツを通じて心身のリフレッシュを図る。</li> <li>スポーツイベントの内容を充実させ、スポーツをするだけでなく、見ても楽しめるような機会を作ることでスポーツの関心を高める。また、令和5年開催の国民スポーツ佐賀大会に向けて市民上げての取り組みを行い、嬉野市の魅力を発信することも踏まえ、観光関係機関と連携し、市全体の知名度アップや地域活性化に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ教室などは時期を延期したり工夫してできる限り実施した。またスポーツメーカーとの協力で一般向けの教室を実施したが好評であった。</li> <li>子どもたちへ体を動かすことの基本動作を身につけるため、スポーツチャンバラを市内小学校へ訪問し実施した。スポーツイベントについてはプロサッカーチームのホームゲームに市民を多く観戦させたり、ハーフタイムで高校生のクラブ活動の発表ができた。</li> <li>令和6年の国民スポーツ大会に向けて独自のグッズや応援フラッグの作成を行い、市民へ大会への取り組みを周知した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ教室は成人を対象にしているが、実施時間帯を工夫し日中、夜の教室を行ったが、まだ参加者が少ない。また参加者には健康面でのケアをあわせて行う必要がある。</li> <li>子ども向け事業の取り組みは学校の協力が不可欠で全校による取り組みができていない。</li> <li>イベント事業については市民がスポーツに関心を持ってもらうことが重要であり、あわせて嬉野市のPRをしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ教室については、日時、時間帯などを工夫し参加しやすしい環境をつくる。また健康づくり課、福祉課とも連携し健康づくりのケアを行う。</li> <li>子ども向けの事業で放課後児童クラブに限らず、学校全体で取り組むよう働きかけを行う。</li> <li>イベント事業については、観光、広報、農政など他部署との連携を図り、スポーツイベントを通じて嬉野市の魅力を発信する。</li> </ul>

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(段階)
<p>(1)コロナ禍のもと、必要と考えられる事業・対策等はよくなされていると評価する。</p> <p>(2)図書の宅配サービスについては、家庭のネット環境整備状況等も踏まえ、電話による申し込みも可としてほしい。また、図書の貸出期間についても余裕があればと思う。「2週間」から「1ヶ月」にしてほしい。</p> <p>(3)講座開設・実施については、よくなされていると評価する。講座受講者の感想・声を市報などで紹介し、「講座のよさ」をもっとアピールすればよいのではないかと。有線放送も活用できるのではないかと。</p> <p>(4)講座については、市民のニーズをもとに開設したり、内容の工夫改善を行ったり、また、コロナ禍を考慮し、人数制限等の配慮も必要であろう。</p> <p>(5)行政主導の講座・サークル活動から市民の「自主サークル」活動への移行、そのためのリーダー育成が課題であろう。</p>	A

指摘を受けての改善点
<p>(2)図書の宅配サービスを今後導入検討する場合に、電話による申し込みも含め申し込みの在り方も検討したい。図書の貸出期間は規則に定められており、個人に対しては一般図書が15日以内、延長は返却予定日から15日以内とあり、最長で1ヶ月弱借ることができる。資料の回転率の低下、他の貸出希望者への機会喪失等の配慮も含め、一律に期間を延長するのは難しい。</p> <p>(3)講座やサークルの活動など普段取り組まれていることを、市報やホットステーションなどで紹介し、広くPRできるようにしたいと思います。また講座やサークルでの作品なども定期的に展示したい。</p> <p>(4)講座については、市内及び近隣市町から情報収集を行い、人気の講座など研究したい。</p> <p>(5)行政主導の講座については、講座の楽しさを実感してもらうような仕掛けが必要であり、参加者が継続して活動したくなるような内容や人数を工夫したい。</p>

評価4段階	A	達成(80%以上)
	B	ほぼ達成(51~79%)
	C	やや不十分(50~21%)
	D	不十分(20%以下)